

[令和5年度] 第10回 飯田市新文化会館検討委員会 会議録

会議名称	第10回 飯田市新文化会館整備検討委員会
開催日時	令和5年12月7日(木) 午後7時～8時54分
開催場所	飯田文化会館 会議室1～4
出席委員 (敬称略・ 順不同)	片桐啓、上沼俊彦、川崎好昭、塩澤哲夫、高松和子、田中悦雄 原田雅弘、飯島剛、佐々木祥二、小木曾俊夫、遠山あづみ 前澤正徳、森本典子、小澤櫻作、佐々木宏幸、山元浩
欠席委員 (敬称略・ 順不同)	黒河内智子、高山和夫、桑原利彦
オブザーバー (敬称略)	井坪隆
出席事務局職員	教育委員会：教育次長 秦野高彦、統括支援担当専門主査 松下徹 文化会館：館長 下井善彦 館長補佐兼文化会館建設担当専門主査 筒井文彦 館長補佐兼事業係長 福澤信幸 管理係：和田健太郎 事業係：白井美樹、中島弘貴 人形劇のまちづくり係：係長大島英美恵
会議の概要	1 開会 2 議事 (1) 今後の進め方【資料No.1】 前回までの振り返り【資料No.2、ニュースレター第8号】 (2) 基本構想(素案)の検討【資料No.3】 3 事務連絡 4 閉会

※次ページ以降の会議録(発言内容)には委員の氏名を掲載いたしません。

---

## 1 開 会

○委員長 新文化会館整備検討委員会を開催させていただきます。

本日、黒河内さん、高山さん、桑原さん、3名の委員さんから欠席の連絡がありましたので報告させていただきます。

なお、小澤学識委員は、今ご紹介ありましたけれども、お仕事の都合で大分からオンライン参加ということですのでご承知おきください。

なお、前回に続いて、学識委員である明治大学佐々木教授の研究室から、学生さんが傍聴に来てくれています。ご報告させていただきます。

この場で見える資料に意見や質問はなかなか厳しいかなと毎回思いますが、討論の中で、あるいは説明の中で目を通していただきながら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

---

## 2 議 事

○委員長 それでは早速ですが議事に入ります。

---

### (1) 今後の進め方、前回までの振り返り

○委員長 初めに（1）今後の進め方及び前回の振り返りについて、事務局から説明をお願いします。

○教育次長秦野 それではよろしくお願ひします。教育次長の秦野でございます。

今後の進め方ですが、委員会の次第を1枚めくっていただき、資料No.1をご覧ください。今まで第8回、第9回にわたってご議論いただひていますが、今回第10回でも基本構想（素案）を検討していただくという形になっています。

前回の委員会でもお伝えしたとおり、これから12月から2月にかけて、各方面からご意見を頂くことになり、2月には一か月間パブリックコメントを行おうと考えています。

第11回として令和6年3月に委員会を開催し、詳細は未定ですが、パブリックコメントなどが終わり、委員の皆さんに最終的な確認をお願ひしたいと考えています。

本日の委員会は、市民の皆さんに公表する前段階という形の「基本構想（案）」となるようご議論いただきたいと考えていまして、委員長のお話のとおり意見を頂くには大変急な資料ですが、ぜひよろしくお願ひします。

今回の素案には、前回の委員会でご頂いた意見を踏まえ、さらに修正しています。後ほど説

明させていただきますので、ご意見をよろしく申し上げます。

今後、この基本構想の後は基本計画を策定する作業になってくるわけですが、基本計画につきましても、より具体的な施設規模や設備を含めた機能、概算事業費や事業スケジュールなどが内容となってきます。基本構想では基本理念をもとにした事業のあり方、施設整備の方向性、大きな考え方をまとめ、具体的な規模や設備などは、基本計画の中で来年度に策定していくということになってまいります。

ここまでくると「建設候補地はどこか」と、建設地に関心が高まるということは十分理解をしていますが、こちらにつきましても、さまざまな課題を検討していく必要がありますので、市の責任で調査、検討、判断を行ってまいります。

既にさまざまな検討は進めていますが、現時点では、特定の場所を皆さんと一緒に検討できる段階ではないことをご理解いただければと思います。

本日はよろしく申し上げます。

○委員長 それでは、下井館長お願いします。

○館長下井 それでは続いて、資料No.2と、まだ校正中ですが「ニュースレター第8号」をお配りしていますので、そちらを説明させていただきます。

まずニュースレターですが、前回11月6日開催の第9回整備検討委員会をまとめています。これまでの議論で頂いた意見は、基本構想（素案）に反映されているということをご確認いただきました。

それから資料No.2にまとめていますが、「今後、市民の皆さんが手に取られたときにより分かりやすくなること、それが大事だよ」「どんなメッセージを送れるかを考えながら進めていければポイントが明確になってシャープになっていくのではないか」というご意見を頂いています。この辺りは、この後の基本構想（素案）の議題のほうで修正内容を説明してまいります。

恐縮ですが、またニュースレターに戻っていただきたいですが、ページとすれば4ページ、最後のページになりますが、その最後、ここに意見交換会の報告を載せています。これは、基本構想で大切にしている基本方針の一つ「伝える」に関しまして、飯田下伊那で活動するクリエイターの皆さんで意見交換を行ったことの報告です。どのような情報発信が必要かという視点での意見を多数いただいております。一方で、障がい、子育てや介護などで来たくても来れない方、そういう方にどう来ていただくのがいいのだろうか。それらの課題に「多様性を認め合いながら解決していくことが必要」との意見を頂いています。

地域課題に関する対応や多様性への対応については、前回に学識委員からもお話を頂いて

います。芸術文化の拠点でありながらも地域で芸術家を受け入れて、創造活動を生み出す、アーティスト・イン・レジデンスやワークショップなどを起点に芸術文化分野の地域・市民との連携が必要と感じています。

説明としては以上ですが、コーディネートをお願いしております学識委員から補足を願います。

○委員長 願います。

○学識委員 皆さんこんばんは。

前回の会議でも発言させていただきましたが、基本構想は、この10回にわたる皆さんの大変熱心で積極的な議論のまとめではありますが、策定自体が目的ではなくて、この基本構想がまとめられた上で、次の基本計画、実施に進んでいくときのよりどころ、あるいは指標になるべきものと理解しています。先ほどの説明の中でもありましたが、施設の具体的な計画は次の基本計画で行われる。立地の選定もまだ行われていないですし、この会議でも議論されていないですが、そういったことを決める際にこの基本構想が指標になり得るのかどうか、皆さんの議論がこの基本構想の中に記述されているのかどうか、ということが一番大事になると思います。

そういった視点で前回は振り返りながら活発な議論をしていただくことが、第10回目の委員会の役割かなと考えています。

私からは以上です。本日もよろしく願います。

○委員長 ありがとうございます。

指標となり得るかどうか。鋭い指摘を頂きました。

ただいま(1)の前回の振り返り及び今後の進め方について説明がありましたが、ご質問などがありましたらご発言いただきたいと思います。

発言される場合には、挙手の上、お名前をおっしゃっていただいてから着座のままご発言をお願いしたいと思います。

それでは何かご質問などありますでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 よろしいでしょうか。それでは、次に進めさせていただきます。

---

## (2) 基本構想(素案)の検討

○委員長 続いて(2)基本構想(素案)の検討に進みます。

事務局から説明をお願いします。

○館長下井 それでは引き続き、私のほうから説明をさせていただきます。

前回いろいろなご意見を頂きました。それらを反映させていただきました。

全体的にボリュームがあるとありました。幾分抑えましたが、それほど変わっていません。

それでは具体的な説明に入ります。今日の冊子をご覧いただき、黄色のラインが入っているところが修正をかけた部分とご理解いただきたいと思います。1ページ目は目次になっています。構成を変えました。以前第2章は、基本構想の前に現状分析が入っていましたが、やはり基本構想の肝となるところを前にしようと、第2章を基本構想として、第3章に現状分析を回したということです。

先ほど学識委員からもご指摘があったとおり、この構想をつくるのが目的化されてはいけない、やはりこれが将来にわたってベースとなるよというところで、少しタイトルも変えています。「第1章基本構想の策定にあたって」ということですが、以前は策定というところに力点がいつてしまっていたので、1番「基本構想の役割」、2番「新文化会館整備検討の背景」、3番「飯田らしい文化会館を目指して」とまとめています。

それから第2章は1番「基本理念」ですが、2番として「5つの基本方針と想定する事業」という括りにしています。「想定する事業」は、別の項になっていましたが、重複する印象がありましたので整理しました。これは後ほど説明します。以上、目次は全体の構成を少し入れ替えたということでご覧いただきたいと思います。

2ページに行きます。中段から下のほうに黄色のラインが入っていますが、先ほどご指摘を頂いたとおり、基本構想が事業や施設運営のよりどころとなるものですので、その説明を加えています。「将来の姿と進むべき方向性を描いたものである」、「各種計画の根幹となる」、「開館した後も恒久的に事業や施設運営のよりどころとなるものである」と、ここで宣言しております。

4ページにまいります。こちらにも内容的にはそれほど変わっていませんが、時系列に若干整理しました。また、「地域・市民と連携しながら、文化会館で行われる活動を地域課題の解決へとつなげる」ということを加えています。それからその下には、飯田文化会館の歩みをダイジェスト的に入れ込んでおります。

6ページにまいります。上のほうに黄色のラインが入っていますが、「開かれた文化会館」というキーワードをここで取り上げています。それから中段では「内にある文化的な土壌の上に」と加えて、文字として確認しています。

それから7ページにまいります。ここは基本理念、一番大事なところです。大分修正しています。まずは、前文を整理しました。目新しい表現はないですが、前文としてここにし

っかり入れています。「基本理念が描いている新しい文化会館」にも黄色のラインが入っていますが、「年齢・性別・国籍・障がいの有無」と、「国籍」や「障がい」という言葉を入れました。意味的には今までも含めていましたが、文字で書き起こしました。それから「日常的」という言葉と「非日常」という言葉も非常に重要なキーワードですので、ここに入れています。それから「開かれた文化会館」、先ほどありましたが、ここでも確認しています。

7ページ一番下にイラストを入れています。これは前回もありましたが、まだイメージとして足りていないということで、ここでは「集う」、「観る」、「創る」、「伝える」、「育む」の中でも、やはり「集う」ということが一番最初の入り口ではないかと、それを若干大きくピックアップしています。それが「人を育み、まちを育み、活力を生み出す」ということにつながって、それがまた文化活動に戻ってきて、グルグル循環していくというイメージです。

8ページにまいります。先ほど目次で触れましたが、重複するイメージがあったところを整理しています。「5つの基本方針と想定する事業」ということで、この2つのものを合わせて表組にしています。8ページではまず「集う」ということで「日常的」「誰もが集える機会の提供」、それからキーワードにもありますが「日常と非日常の結びつき」、これが大事ではないかということで入れ込んでいます。

9ページから11ページ、こちらは表組みに整理したということで内容的に修正したところはありません。

13ページにも「日常的」という言葉を入れてあります。

それから15ページにまいります。黄色のラインの部分は前は空欄でしたので、新しく入れ込んだということでご覧いただきたいと思います。内容的には、これまでも話が出てきていますが、「飯田方式」というふうと呼ばれる、市民と行政が一緒になって実行委員会を組織して、企画から運営まで担っていただいているということを説明しております。

あとは幾分修正入れたところがありますが、基本的な内容はほとんど変わっていませんので、説明を省略させていただきます。

皆さんからいただいた意見、反映させたいつもりですが、ご意見を頂ければと思います。

以上です。

○委員長 ただいま(3)基本構想(素案)の修正点について、事務局から説明がありました。

ここからは委員の皆さんのご意見、ご発言を頂きたいと思います。

なお、本日は、素案の意見交換の後に、委員の皆さん全員からこれまでの委員会を振り返って感想や、今後の整備に向けての期待などをお話いただきたいと考えています。予告しますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず前回の委員会の意見から修正された基本構想（素案）に関して、ご意見を  
お願いしたいと思います。どうぞお願いします。

○委員 最初のうち私は新文化会館の基本構想とは何なんだという思いがありましたが、これまで  
皆さんで話し合っていたいて、それから学識委員の皆さんのお話を聞いて、今日のこのま  
とめを見させていただいて、非常にうまくまとまっていると思ったところです。

今後、基本計画をつくるために基本理念がすごく大事になってくると先ほど学識委員から  
お話がありました。私も元々コンサルの仕事をしていたこともあって、企業だと経営理念が  
すごく大事で、経営理念に従ってその事業が全て行われているかということをいつも立ち返  
ってみる。理念がバックボーンという位置付けからすると、まさに皆さんで話し合っていた  
いただいた今回の基本構想の中の基本理念が基本計画をつくるための柱、バックボーンになる  
ということです。皆さんがこれまで意見を出していただいたことが、本当にうまくまとめら  
れていて、あとは基本計画にここを外さないように、という思いは十分書き込まれているの  
かなと感じたところです。

○委員長 ありがとうございます。

ほかに、どなたかいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○委員長 目次のところで第1章、第2章というふうに「基本構想・基本理念というところをつな  
げてあるよ」、「このほうが見やすいんじゃないか」、「市民の皆さんに見ていただいたとき、  
このほうが見やすいだろう」とお話が先ほどありました。

それからその基本構想・基本理念のところで「集う」ということが入り口だろうから、そ  
れを真ん中に持ってきて、5本の基本方針を図式化してみたよということがありました。

それから「日常」と「非日常」、「開かれた文化会館」、「基本理念の前文」をつくったとか、  
大分工夫して、分かりやすく伝えられるようにされていると思いますが、いかがでしょうか。

お願いします。マイクが行きますので。

○委員 お世話になります。

前回の資料に目を通させていただいて、今回このようにさらに改訂されて、本当にすごい  
資料だなと思って見ました。やっぱり見やすさというのは、まとめてあったり、パラグラフ  
とかになっていたり、絵があったりするの、可視化するというか、パッと見で読む方には  
とても分かりやすいだろうなと思って読みました。

またじっくり読ませていただきたいと思いますが、違うところで、今日の資料の話でもい  
いですか。3ページ目の資料No.2、左の真ん中辺り「基本構想についての主な意見」に「文

化は遊びであり楽しむことを伝えられないか」と書いてあります。私はこの言葉が好きというか、とても大切だなと思いました。「開かれた文化会館」というのも同じで、文化会館はどちらかという堅いイメージで捉えられやすいですが、ここに来るとなにか楽しいことがあるよという館になったら、館だけでなくスペース、広場になったら本当にいいなと思っています。ニュースレターの絵は楽しそうなんですけど、なにか言葉で入ってもいいのかなと思って読ませていただいています。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございます。

○○さん、語っていただいてもいいですか。

○委員 なぜか指名を受けてしまいましたけれども。

基本構想自体は大分分かりやすくなって、入りやすくまとめていただいたと思いました。

次長のほうからも冒頭、毎回繰り返しておっしゃってるんですが、よりどころになるということと、学識委員のお話からいくつか気になっているところがあります。

一つ目は、施設のイメージに関することなんですけど、この検討委員会の中でよく出ていたのは公園みたいな場所があるといいなっていう、非常に私もそこは夢を感じていいイメージのことなんですけど、それについてほとんど触れられていないということです。公園は難しいと思うので、場合によると中庭があって周りを回廊が結んでいるような施設でも、そういうイメージでそこでみんなが集っているいろいろ楽しんでいるという空間、場所があってもいいのかなと個人的には思っています。これはもう個人的な考えの話ですので特にどうしてほしいということではありませんが、みんなが集えるような開かれた広場みたいなところが少し乏しいのかなと、記述の中では抜けているような気がしています。

それともう1点は、場所のことについてです。最近、宴会があると、私の立場を知った人もいて、よく言われるのが「どんな施設になるの」という話の一つ。それにはいろいろな意見があって、集約すると「今よりいい施設で、使いやすくて、いろいろなものが楽しめるいい機能・設備を持ったものにしてほしい」というところなんです。もう一つは「場所はどこになるの」と聞かれてしまいます。「こういうわけでまだ全然決まってないですよ」と話しますが、場所はすごく重要なことだと思います。今までを振り返ってきた中で、飯田らしさというところを考えると、ある程度文化的な蓄積がある所に立地しないと広がらないのではないかと、波及効果が乏しいのではないかと。ただポンと施設がそういう蓄積のない所にできても、ただ行って帰って楽しむだけというふうになってしまい、広がりが少ないのではないかとこのことを考えます。特定することは難しく、書き込むのは難しいと思いますが、もしかする



と概ね委員の皆さんがイメージしているのが丘の上周辺で、そういったことをよりどころとすれば、触れていただけるとありがたい。もし基本構想の中で書き込むことが難しければ、委員会の附帯意見として付けていただけると、次のステップでより具体的にイメージしやすくなってくるのかなという、お金のこととかいろいろは考えずに、そういうことを思って感想ですが申し上げたいと思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

気になるところということで2点ご指摘いただきました。集う空間ということで大事にしてきた部分があるんだろうけども、その記述が少ないのではないかと。後で皆さんのご意見をください。

2点目は、建設場所のことについてです。附帯意見として付け加えてもいいのではないかと。事務局どのようにお考えでしょうか。お願いします。

○館長下井 ありがとうございます。

建設場所につきましては、非常にもちろん大切なところだと考えています。検討はもちろん始めていますが、この基本構想の実現に当たってどのような所がいいかということは、私どもしっかり受け止めて検討していきますので、附帯意見という形で付けていただくことは、私どもとしても何とも難しいところがございます。この基本構想から見えてくるイメージをしっかり踏まえて、これから場所を示していきたいと考えています。

いろいろな条件もありますので「ここが」というふうに特定するところは難しいですが、今まとめますと、この基本構想が目指しているものがどこで実現できるかということがおのずと見えてくるかと考えていますので、そこを大事にししながら、建設場所を考えたいと思っています。

○委員長 はい、ありがとうございます。

どうぞ、ご発言ください。

○委員 7ページの基本理念、黄色の線、2行目です。「また伝統芸能や人形劇など」、伝統芸能や人形劇は「また」なのですか。

「芸術文化に触れ、心が満たされ」云々と書かれているところに「また伝統芸能や人形劇など飯田では」となっているわけですが、なぜこれが上と一体ではないのか。人形劇にしても40何年も歴史があるわけですし、伝統芸能はもう何百年も前からありますが、「また」で分かれています。どういうことでそういうふうになっているのか、お聞きしたいと思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。

なぜ「また」なのか。事務局にお答えお願いしてもいいですか。

館長お願いします。

○館長下井 ご意見いただいてありがとうございます。

正直言って分けたつもりはないですが、違った印象を与えるとすれば、ここは修正する必要があると思います。ここで文章を分けたことにそれほど深い意図はないです。

○委員 「文化に触れ」という中に、私は伝統芸能、それから人形劇という文化はもう十分に根付いてるように思うので、ここで区分されたことの意味はどういうことなのかなということをお聞きしたんです。

○館長下井 区分したわけではなくて、例示というとまた誤解を招くかもしれませんが、あえて言葉に表したということです。誤解を受けるようであれば修正しますが、イメージとしては特別分けたとか、2番目にしたということではありません。

○委員 45年の歴史は何だっただろうと今思ってしまった。すみません。

○館長下井 ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。

また、表記の仕方、事務局のほうで工夫いただきたいと思います。

ありがとうございました。

それでは、先ほど指摘のあった公園のような広場を大事にしてきたではないか、そのことについて記述があまりされていないが、この点はどうかということについて、ご意見ある方いらっしゃいますか。

(発言する者なし)

○委員長 それでは、事務局お願いします。

○館長下井 7ページが中心と思いますが、公園は広場の代表と思っていただきたいと、我々としてはそういうイメージです。

「公園」と書いてしまうとイメージが物理的なものに偏ってしまいますので、我々としては「ひろば」という言葉に公園も含めています。13ページでも触れており、「(2) 施設機能の整理」というところです。そこにオープンスペースというところがありますが、ここに「公園」という言葉を入れてもいいのかもしれませんが、やはりイメージが固定してしまいますので「ひろば」という言葉が代表していると今のところ考えているところです。

○委員長 ○○さん、どうぞ。

○委員 今の「ひろば」に関して、12ページに描かれたイラストがあります。ここのイラストの説明が「日常と非日常の結びつきをイメージ」のみになっていますが、おそらくこのイラスト

をみただけの方にはあまり理解されないのかなと思います。このイラストが何を表現しているのか、「ホールが核となって、その周りに小さな群れ、小さなグループがこのホールを核として周りに集まって、非日常から日常へ派生していった、それがまち全体へ広がっていく」という文章を第5回の会議録を参考にして付け加えると、より分かりやすく「このイメージが飯田ひろばに連結しているんだよ」というような一文が入ると、分かりやすいのかなと思いましたので、また検討いただければと思います。

あともう一つ、言葉の表現でまた検討いただければうれしいところが1個ありまして、6ページの飯田らしさ1、「外からの文化の吸収と展開してきた背景」というのが、ここだけパッと見たら少し分かりづらくて、「てにをは」の問題だと思うのですが、ここを「外からの文化を吸収し展開してきた背景」としたほうがおそらく読みやすいかなと思うので検討いただければと思います。もちろん、本文のほうを読んでおいて、この水色の枠を読めば分かりますが、なんとなくキャッチーじゃないかなと思ったので指摘させていただきます。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

具体的に示していただきました。12ページのイラスト、もう少し説明したほうが、記述があったほうが分かりやすいのではないかとご指摘ですが、館長いいですか。

○館長下井 はい、ありがとうございます。

文章のほうは検討させていただきます。

12ページのイラストは、学識委員がグループワークの中で描かれたものをそのまま拝借させていただいたところです。こちらも検討させていただきますが、個人的には説明文をあまり長く載せないようにというイメージです。

○委員長 ありがとうございます。

確かに12ページのイラストは、私たちは委員会のなかで見慣れています、初めて見ると「何を表しているんだろう」となってしまう可能性はあると思います。今、委員がおっしゃったことが、文章で説明が入ると分かりやすいのではないかと思います。

○○委員、どうぞ。

○委員 私は逆で、いろいろイメージしていただくためのイラストであることを考えると、「これ何を示してるんだ」と考えていただくには、イラストだけのほうがいいのかと思っています。

○委員長 このままのほうがイメージしていただけるぞと。

話が外れてしまうかもしれませんが、ここにある「ひろば」という言葉も意外と「うーん」となることが多いですね。私たちの中ではすごくよく分かるイメージだと思いますが、

「人々が集まってくるとそれが広場になるよ」ということがありました。

この辺は検討してみましよう。

では、ほかの視点で何かご意見ありますか。よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 大事ないくつかの意見をお示しいただいて、本当にありがとうございました。

それでは、この辺で今の意見交換に関して、学識委員の皆さんから感想を述べていただけたらと思います。

最初に〇〇学識委員さん。

○学識委員 基本構想というのは、今後、管理運営計画を作成したり、開館後は5年・10年後に事業評価を行ったり、その後の事業のあり方を再検討したりするときに必要となるととても大切なものです。

この基本構想は、これまで文化を積み上げてきた飯田市の皆さんや飯田文化会館のご経験やお考えがまとまっているものだと思っています。皆さんが蓄積してきた大切な宝物を、蓋を開けて再確認していくことが、ホールができた後、5年後、10年後でも続いていくものだと考えています。その再確認のときに、そのときのスタッフの方々が今の市民の皆さんの思いに会う瞬間ではないか、と考えると、委員の皆さんのご意見が集まった本当に大切なものだと思います。今まで委員会に参加させていただきまして、出てきたご意見が多く含まれていると思いますので、とてもいい基本構想だと感じています。

この大切な宝物、今後、ホールができてから5年後、10年後の時代、また社会が大きく変化していると思われるので、そのときにも対応できるような自由度も含め、とてもいいものになったのではないかなと考えています。

私からは以上です。

○委員長 ありがとうございました。

続いて〇〇学識委員、お願いします。

○学識委員 今の〇〇さんと同じような感じを持っています。前回の資料から比べると重複していた部分がかかなりすっきりして、とても良くなったと思います。市民の皆さんがご覧になるときにできるだけ分かりやすい資料のほうがいいと思っています。役所が作るこういう資料は全てを読み切ることが難しいものが多いですが、これこそは、本当に委員の皆さんのいろいろな気づきで作られてきた飯田らしい資料になっていると、私は率直に思います。

これから市民の皆さんがこの資料をご覧になって、ご意見をいろいろと頂くとと思いますが、期待感を煽るような、魅力的な中身になってきたと思っています。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは続いて、〇〇学識委員、お願いします。

○学識委員 私も全く同感です。これまでの9回、そして今日の10回目と、皆さんの活発な議論の内容が大変分かりやすく整理をされて、盛り込まれているというのが最初の感想です。それと同時に、今日ご出席の委員の皆さんから出た意見が、まさに今まで議論を重ねてきた一人一人の思いが実によく伝わる意見だと思いました。

そういったこともありますので、今出た意見に関して私の考え方を述べさせていただきます。まずは6ページ、「飯田らしさ1」に関しては、ごもっともと思ひまして、「外からの文化を吸収し、独自に展開してきた背景」ということがまさに飯田らしさになるのかなと思いました。

それから2点目のご発言です。これはどちらにも取れる表現になっていると思いました。その中でまさに〇〇委員の思いからは、おそらくこの「また」というのを「そこでは」と変えることかと思ひます。「新しい文化会館は市民の皆さんが芸術文化に触れ、心が満たされる鑑賞の機会を提供します。『そこでは』伝統芸能や人形劇など飯田ならではの文化を発展させ、さらに新たな飯田らしい芸術・・・」となると、「また」という並列ではなくて、なにかまず箱があり、そこでこういう文化が、というふうに読めるかなと思って聞いていました。

それから〇〇委員のご発言に関しては、おっしゃることは全くそのとおりだなと思ひつつ、きっと公園というのを「広場」を漢字にせず平仮名にしたことで、「ひろば」という3文字に公園や空間を含むようにしたということだと、私は理解していますが、その辺りがどういうふうに捉えられるかということかと思ひます。

それからもう一つのご発言が多分一番、事務局の皆様としてもどのように扱うか頭を悩まされるかと思ひます。あくまで一つの可能性として発言をさせていただくと、同じ8ページの「集う」のキーワードの中の3行目にある文章、「周辺施設や街中空間などとの結びつき（点から線へ）」があります。これを方向性のところに上げることが可能なかどうか。そして方向性のところにおいて、ほかの文章とのトーンを合わせ、「周辺施設や街中空間などと結びつき、点から線へ、線から面へと広がる施設」ぐらいまでを入れる。「丘の上」という言葉は入れられないですが、「点から線、線から面」、それから「周辺施設や町中空間などと結びつき」ということを入れることは可能かどうか。方向性のところに上げると、ここにいらっしゃる方で立地の話は議論しないけども、思いとしてという辺りが伝わるようになるのかなと思ひながら聞いておりました。

それから 12 ページのイラストの扱いに関しましては、皆様にご一任しますので、皆様が一番いいように扱っていただければと思います。

以上です。大変素晴らしい資料になっていると思いながら拝見しました。

○委員長 はい、ありがとうございました。

意見として出されたものを、大分具体的にこういうふうにしたらどうかとご指導いただきましたので、助かります。

それでは、委員の皆さん全員からご発言いただくコーナーへ進みたいと思います。

さっきの基本構想・基本理念に関わった話をしてくださっても結構ですし、今までこの委員会に参加してきたの感想でも結構です。

どうぞ、お願いします。

○委員 仕事の関係で出られない日が多くて大変申し訳なかったです。的外れのことを言うかもしれませんが、一つ話をさせていただきます。

私は一つのジャンルに長いこと関わってきているんですが、このジャンルがより発展していく、広がっていくためには何が必要なのかなといろいろ考えることがあります。それが全てではないかもしれませんが一つ重要なこととして、やはりほかのジャンルとの融合、つながり、コラボレーション、そういったものがそれぞれのジャンルを活性化しているということを感じることがあります。

実は先日、名古屋のある演出家の方が亡くなりました。彼がやってきたことはすごく面白いと思いました。私は何年もずっと見てきて、いろいろなお話をさせていただきましたが、彼は名古屋で人形劇の事業に関わりながら、人形劇のいわゆる劇人俳優のほかに、普通の芝居の俳優、ダンサー、義太夫節を語る方など、さまざまな人たちを集めて一つの芝居をつくるという試みをずっとやってこられたのです。今年もフェスタでもその上映がありました。例えば人形劇と義太夫が絡むと「ああ、こういう豊かな世界が広がるんだな」、「こういう表現の仕方ができるんだな」と感じる事が非常に多いわけです。

そういった意味でも、この文化会館の中で重要なのが、そこに集まった皆さんがやっぱりどうやったらつながっていけるのかということがすごく重要。まずは集まってくれなければ話になりませんが、それがどうジャンルを超えてつながれるか、ということはずごく大切だなと思います。

私がこういう活動していても一つ感じることは、飯田より大きい規模のまちになると、人形劇のコミュニティがあって、芝居のコミュニティがあって、それぞれがあまりつながっていない。だから名古屋みたいな大都市でつながりをつくったことはすごいなと思っています。

す。でも飯田はそもそもそういった仕掛けがないところでも、音楽をやってる方と私がつながっていて、「今度こんなことを手伝ってほしい」といった話が気楽にできて、そういったことができる土壌があるということは、すごいことだと思います。

それをより促進して、こんなことやりたいと思っている劇団があったときに、こういうところでもっと広げたいなと思ったときに、美術の人に話をしてみるだとか、そういうつながり方ができる場は非常に大事だなと思います。ハードがどうこうの問題ではなく、つくられてからのソフトをどう展開していくかとか運営の問題だとは思いますが、そういったところを大切にしていく必要があるのかなと感じています。

それから、先ほど立地のことが出ました。実はこの前、長野市にある県立美術館の方といろいろなことを話しました。県立美術館は善光寺のすぐ裏にあり、そのすぐ裏には東山魁夷館、長野市内でいえば水野美術館があります。「そこを一つの文化的な集積として捉えてアピールができないか」、「つながって一緒に事業やる」、「善光寺と美術館が連携した事業だとかできませんか」と話をさせていただきました。「善光寺のついでに美術館を」という、一つの文化的集積としてのアピールがあるといいと申し上げました。そういった意味でも、やはり文化のある程度の集積がすごく大切だと思います。何ともないところにポツンとできても、やっぱりつながっていかないと私は正直思っています。それなりの文化的な集積のある場所に位置することが望ましい。現実的な問題とは別としてですが、そのように思っています。

まとまらない話でしたが、そのようなところです。

○委員長 それでは、続けていきたいと思います。

前列の〇〇さんから、後列の〇〇さんまでというふうにしたいと思います。お願いします。

○委員 本当に基本構想は上手にまとまっているなと感じましたし、きっといいものができるかなという期待をしています。場所の問題がいろいろありました。この整備検討委員会が場所のことに口が出せないことに引っかかっていますが、こういう基本構想をつくる時、頭の中に「こういう場所がいいだろう」という考えがあると思います。そういうものをまとめて市にお願いすることができるのかと心配しています。

それと、これから新しい施設ができたときに、施設を造ることではなくて、その後の運営が一番問題かなと思っています。実際、以前にあった文化会館の食堂は消えてしまった。要するに使い方、その後の運営の仕方その施設が生きるも死ぬもあるなと感じています。

○委員長 はい、ありがとうございました。

最後に教育次長にまとめていただきますので、もしお答えいただけるものがあれば、そのときに含めていただけたらと思います。

それでは、続いて〇〇委員、お願いします。

〇委員 今年の4月から、私の前は〇〇さんでしたが、この会議に参加させていただきました。これを見ると、本当に大変な作業をやってこられて、いろいろな意見がまとまっているなど感じています。

私は前、まちづくり委員会の会長もさせていただいていたので、文化会館の建替えとなると、場所のことから、というイメージでしたが、こういう基本理念・基本構想から場所を選ぶということの重要性を今はすごく感じています。

それから今年は、いろいろなところへ行かせていただきました。佐久のコスモホール、長野の芸術館、サントミュージゼを見てきまして、飯田より充実した設備を羨ましく思う反面、飯田に合った建物が本当に必要ではないかな。大きくて立派な施設でも、〇〇委員から話がありましたように、運営は大変だということ、メンテナンスが必要だということを視察先の担当者から聞くと、やはり背丈の合った飯田の、それこそ先ほど〇〇委員や〇〇委員が言われたように、飯田は人形劇のまちで、いろいろな伝統文化がありますので、そういうところを考えて身の丈に合ったものをと考えます。それでもやっぱり、視察で舞台裏も見ると羨ましいなと感じます。

これから基本計画の中で基本構想をどう生かしていくのか、根幹になるものですので大変だと思います。

ありがとうございました。

〇委員長 ありがとうございました。

それでは続けて、〇〇委員お願いします。

〇委員 長い時間をかけて「飯田の文化とは何か」から始めまして、基本理念、それから基本構想と、これだけのものをまとめたことは非常に素晴らしいと思っています。

先ほどもお話が出ていますが「ひろば」の考え方、公園という部分も含めてのお話でしたが、やはり交流を広める部分も含めて、ここら辺を一番大事にしていきたいと私は今考えています。

基本理念が描いている新しい文化会館を7ページに書いてありますけれども、「年齢、性別、国籍、障がいの有無に関わらず、誰でも集まって、気軽に楽しくできる文化会館」、やはりそういうものを求めていくことが必要と感じています。

あとはいかに文化を、この文化会館から外に向けての発信ができるかというところが非常に重要になるのではないかと考えています。

大変素晴らしいものが出来上がってきて、非常にうれしく思っています。



以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、〇〇さんお願いします。

○委員 私は、この会には公募で入らせていただきましたが、自分自身が踊りをやっていたり、歌をやっていたりして、この委員会に来たかったのは文化会館自体の機構をすごくいいものにしたいなという思いからでした。ここで「飯田の文化とは何だろう」という話を最初にしたとき、「そうか、そこからちゃんと掘り起こして、皆さんで話をして、つくっていくものなんだな」と気付いて、私が焦って頑張らないと思っていたところが、そうではなくて、もっと土台の基本理念が大事だったんだなと勉強になりました。

今回 10 回目にもなっているということで、こんなに時間が経ち、この冊子が本当にすごいものだなと思っています。

この会に入らせてもらってから、私は特に何も役などが無いので、会ういろいろな人たちに「文化会館、今度できるんだよ」という話をしてしています。そのときにいろいろな考え方を教えていただくと、どちらかという芸術文化を楽しんでいる人たちと話すことが多いので、「本当は文化会館が一つじゃなくて、いろいろなところに数あったほうがいいね」や「舞台機構を立派なものにしてほしい」など、いろいろな意見があります。

実際に文化会館を使う方に聞いていると、少し残念な話もあります。旧飯田市公民館に 500 席くらいのホールがあって、残念ながら老朽化で潰れてしまい、そこが飯田駅前の「丘の上 結いスクエア」の「ムトスぷらざ」に移動したとき、小さくてもそこにホールができるのかなと期待していた方がとても多かったようです。ところが、「多目的ホール」というスペースはあるんですけど「実際に舞台としては使いづらい」という声を聞くことがあり、私は「その代わりにいい文化会館ができるようにみんなで頑張るからね」と伝えています。

あともう一つ、長野県の「飯田創造館」という素晴らしい、それこそ文化芸術の拠点の建物があります。今、県はそれを廃止しようとしています。まさにあそこは私たちが考えている芸術文化のひろばなのかなと思います。公園があり、広場があり、建物があります。その考え方をこちらでも少し学ぶことも大事かなと改めて思っています。「新しい文化会館は歴史も踏まえたものだといいな」という声も聞きます。

あと、先ほど学識委員の「今の市民の思いに会うもの」という言葉がすごく素敵で、「それが理念なんだ」と思いました。やはり 50 年前の時代と今とでは全然違うので、先ほど〇〇委員も言われたように、複合芸術とかミュージカルとかできてきています。単独の文化も大事ですが、つながる、この小さな飯田だけどつながっていくことはすごく大事だなと思

ながら聞いていました。

あともう一つ、先日、伊那谷文化芸術祭が11月の毎週日曜日に開かれて、いろいろな芸術文化の発表がありました。私はその受付をしていて、ある来場者が受付の近くで配られていた「ニューズレター」の第7号を見て、「運営は決まったのか」と言われたので「まだ協議中です」と答えたら、「民間だと営利第一になるで、公立でやって」とお話をされました。その方としばらくお話していたら「建設のお金がなかったら、ちゃんと国や県からもらえよ」みたいなことも話されて、私はびっくりしてしまいました。いろいろな人と話すことは大事だなと思いました。みんなでいいものをつくりたいなと思っています。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○さんお願いします。

○委員 私も公募で参加しました。舞台技術の観点からお話に加われないかなと思って来ました。

この10回の中で「飯田方式」とか「飯田らしさ」という話がたくさん出てきましたが、私はコロナ禍の前まで飯田にいなかったものですから、「それは何なんだろう」というところから始まりました。今でもクエスチョンマークが、「うーん、どういうことなんだろう」と思うことがたくさん飛び交ってます。

この5つの基本方針、みんなでよくつくり上げたなと思っています。

これをいかに具体的に実現させていこうか、どんな施設ができるのだろうかということを頭の中で考えていくと、すごく膨大な広大な施設が出来上がってしまう気がしてしまいます。最初の2～3年は華々しく構想どおりにやって、それがだんだん尻つぼんでいくというホールがありますが、その後の発展を考えると、いかにこれを継続させていくか。それが一番課題かなという気がします。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございます。

○○さんお願いします。

○委員 ありがとうございます。

委員会に参加すれば参加するほど難しくなって、だんだんと分からなくなりますが、私は舞台を使っているというよりは、外から見に来るほうですが、文化会館の鍵となるのはやっぱり人が行き交うことだということに一貫して思っています。

人が動く原理というのは、私は「うれしい、おいしい、楽しい」だと思っていて、「舞台を見てうれしい」、「舞台を演じてうれしい」、「舞台を見て楽しい」、「ここに来て楽しい」、

それから「おいしいものがある」。周辺の飲食店があるとか、お酒を飲みながら舞台を見た感想でワイワイ盛り上がるとか、そういったことがその後に発展していくと思います。よく聞くのが「飯田市はいろいろな施設があっても、それが全て点であって、つながってないよね」ということです。そのなか、丘の上にサロンができて、「コンサートの後、すぐ近くの、歩いて5分のところにみんなで行って、ワイワイしゃべっているんだよね」、「あれも含めてコンサートだよ」、「楽しかった」という話をよく聞きます。

そう考えると、ホールからどれだけ派生できるかというのもやっぱり必要だなと思います。新しい文化会館ができることは、まちづくりや経済活動の起爆装置になると思うので、それをどれだけ生かせるかというところも大きな視点だと思います。

特に飯田市は、すでに人口が10万人を切って、これからの発展を考えると、どうしてもソフトランディングしていくほうではないかというのが本音です。だんだんと人が少なくなってくるまちであって、その中で新しい施設にお金をかけて造る。そしてそこから先50年使っていく。これからの先はVUCA（ブーカ）時代、先が読めない時代になっていくと考えるなかで、「文化会館を造りたいです」「造りましょう」となったとき、私の子供であったりとか、孫であったりする子供たちがずっと使える施設をどう知恵を絞って考えていくか、どうしたらいいのかと思っています。

とにかく、人が集まれる、人が集まりたくなる、舞台をやる人、舞台を観る人がどう交差していくか。そして、それをどうやって誘い出せるかという視点はずっと考えていく。文化会館が完成した後、周辺の人々が文化会館をどう活用していけるか。また、例えば飲食店の人たちはその近くでどんな経営ができるか。そこに人が集約できる道があるか、駐車場の問題、そもそも車が必要か、歩いて行けるところか、立地の話になってしまいますが、どうしても。そういうところまで考えると、かなり大変だなと思いながらいました。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、〇〇さんお願いします。

○委員 お願いします。

ここの勉強会が始まってから「飯田らしい」という言葉を何十回も耳にしました。最後になって、「飯田らしくなければならぬのか」というのが最後に湧いてきた疑問です。

飯田の人たちがどんどん外へ出て行って飯田の文化を紹介する。飯田へ入ってきて人が「あ、飯田にこんな文化があった」と体験していく。そういうことができる文化会館が魅力だなあと思いました。私一人、少し違う発言をして申し訳ないですが、「飯田らしい」という言葉をどういうふうにも実際の建物に生かしていくのかということより、どうやって飯田の人

たちが文化会館を自分たちのものとして生き生きと表現活動ができるようにしていくかということのほうが、私は大事なような気がします。

今、飯田の人口はどんどん減っていて、子供の数も少なくなっていて、そんなときに子供たちもお年寄りも、自分の持っているものをみんなに見てもらいたいと、どんどん表現していくという、そういうのがいいなど。最後の最後に、どんなものをつくりたいかというよりも、どんなふうにみんなが集まって、どんなふうに芸術に親しんでいくのか、そこが見えてくるような建物ができるといいなと思っています。

この「飯田ならでは」という言葉は、確かに魅力ではありますけれども、やっぱり飯田を対象にしてそれだけを考えていくのではなくて、もっと飯田が外へ飛び出す、ほかの市町村の人たちが「飯田のあそこで自分たちの学んできたものを表現したいよね」みたいに、そう広がっていくことが、これからの時代は大事ではないでしょうか。「飯田らしさ」を掲げて、もちろんそういうイメージで「飯田らしさ」という言葉を使っていないと思いますが、やっぱりこれだけ「飯田らしさ」という言葉が出てくると、もちろん飯田の人たちが楽しんでのびのびと表現活動することも大事ですが、「あの飯田文化会館へ行って私たちが発表したい」、「あそこへ見に行こう」、「飯田の文化会館はあの人たちを呼んで、あんなことができるんだ」というところのほうが私は非常に関心があります。

大き過ぎる施設はなかなか使われない。人が集まっても、一体感が薄く、それぞれがそれぞれに活動しているのを見ると、なんだか違うのかなと思ったことがある。やっぱりそういう形よりも使いやすい、誰もがここで表現ができるという温かさというか、そんな文化会館ができるといいなと思っています。

あまり「飯田らしい」、「飯田らしい」という言葉を使わなくても、万民に愛される文化会館をつくってほしいと思っています。

すみません、ちょっと違う意見もいいたいなと思って、私はそんなふうに考えました。「飯田」という仕切りも大事ですが、そこにとどまらず、もっと広まっていくのが芸術文化だと思っていますので、その辺りをもう少し考えてもいいのかなと感じました。

○委員長 はい、ありがとうございました。

○○さんお願いします。

○委員 過去9回にわたって参加させていただきました。1回参加できませんでしたが、基本構想・基本理念を決めるということに関して、各界のいろいろな方とディスカッションする中で、日頃こう自分の思いや立場上の思いを言う機会がなかったので、こういう場を設けていただいて、思いを発言させていただいたことに感謝申したいと思います。

自分の意見を言う中で、いろいろな人の意見を聞くと、結構同じような思いをされていることに大変感謝すると同時に、自分として非常に勉強になったことにも感謝しています。

この基本構想・基本理念、今日いただいた資料を見させていただくと、いろいろとこれまでに話し合われた内容が反映されていて、いいものができていると思います。

今後のことで、次は計画のほうに移るとき、この基本構想・基本理念をどこまで反映してくれるのが非常に不安になるところです。予算がある中で、自分たちはそのことを関係なく理想的な意見を申し上げてきたのですが、これから具体的にになると、その辺が行政側と我々の立場との違いが出てくると感じていまして、そういったことをどこで折り合いをつけるかということが大変難しい問題になるのではないかと。逆に、心配と同時に期待もしているわけです。これから我々の思いをどう本格的に実現させていくか、これからも頑張っていきたいなど、決意を新たにするようなふうに感じています。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

それでは、〇〇さんお願いします。

○委員 この基本理念は、一般の市民の方にも目に付くようにするんですかね。これをきちんと精読して、隅から隅まで読む人がどれぐらいいるのかなと、ふと今思っていました。

この素案の文章を組み立てには大変な苦勞されたように感じますが、これを精読して理解してくれるには、多くの方にしっかり読んでもらうには分量があり過ぎると正直感じます。

それからもう一つ、場所の選定という話が先ほどから何度とか出ています。これをこの基本構想を基にして、場所の選定をしていくという話が先ほど事務局からありましたが、私は商売人なのでろくでもない勘ぐりをしますが、場所の選定となったら、当然政治的な案件になってしまうだろうと正直考えます。この基本理念が生かされて場所の選定がされますでしょうか。やはりそれは政治だと思っています。

出来上がる施設に関しては、理念的なことばかりでなくて、やはり現実にもう少し目を置いた議論をこの先はしていただきたいと思います。生意気なことを言ってすみませんが、そういう側面がもう少し欲しいといつも感じます。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

それでは、〇〇さんお願いします。

○委員 皆さんにそれぞれ思いを語っていただいて、私が言うようなことはないですが、最初「飯田らしさ」に随分こだわって話をしてくれて、どうまとまるのかなあと思いながら参加させて

いただいて、皆さんのそれぞれの思いや意見がよく練れて熟れて、本当にうまくまとまったと正直に思います。

今お話を聞いていて、雑談になってしまい申し訳ありません。「うれしい、楽しい、おいしい」という言葉を聞いて、実は私には、十数人で旅行に行くグループがありまして、まさに言い得て妙だなという。ひらがなの「しい」をアルファベットの「C」にして、「3Cグループ」と言っています。9月に飛騨高山の奥、古川に行ってきました。行ってみると、住んでいる人たちが住んでることを誇りに思っていると感じました。さらに余談ですが、パチンコ店の名前にも驚きながらも、暮らしの中では大事な文化なんだろうなと思いました。いろいろ含めて、すごく誇りを持って暮らしていると感じたときに、先ほど〇〇さんのお話や皆さんからもありましたが、文化会館のいろいろな活動が飯田だけではなくてどう広がっていくか、無理やり広げる必要はありませんが、飯田にこだわらず、自分たちの誇りとしてそういうところで「活動があるんだ」、「いつでも行けるんだ」となっていくと、非常にいいのかなと思いました。これから本当に、今の〇〇さんのお話のように、次の基本計画になるといろいろなところで大変な折衝ごとも出たりすると思いますが、ぜひこの基本構想をよりどころにして、突き抜けていっていただけるとありがたいなと思います。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

最後に副委員長。

○副委員長 すみません、副委員長ではなくて一委員として。

これまでを通して考えて思ったことです。そうは言っても文化会館はたかが箱物、されど箱物で、皆さんで話し合ってきたと思いますが、文化の担い手は人であるということを考えると、やはりこれだけ皆さんが熱い思いを持って取り組んでいることが一番の飯田の文化なのかなと。どんな文化会館ができて、そこで活動していく人たちがいるのかということがすごく重要なんだろうと。そうすると、私もそうですが、高齢な方が若い方にどうつないでいくのかというところの、文化のつなぎ目のところが一つ大きな課題かなと。こういう基本構想の中でいい建物をつくったけども、文化事業が継続できなかつたということにならないように、これからも継続していく構想をつくるのがすごく大事なのかなと。無理矢理つくるのではなくて、みんなが楽しいと思って、若い人が「楽しいね」、「じゃあ一緒にやろう」と思えるようなものにしていくことが大事なのかなと。施設を考えつつ、飯田の文化事業をどう継続していくのかを非常に考えさせられた、いい会だったと思います。

○委員長 ありがとうございます。

熱く語っていただいて、本当にありがとうございました。

それでは最後に、学識委員の皆さんとオブザーバーから感想をお願いしたいと思います。

最初に〇〇学識委員、お願いします。

○学識委員 はい、ありがとうございます。

私は、音楽祭に参加をさせていただいていた頃から「飯田方式」ということを聞いていて、そのときはピンときてなかったですが、この委員会に第1回から参加させていただいて、10回目を迎えた今ではこの「飯田方式」が本当に肌で分かり、すごいと思っています。

委員の皆さんから、それぞれ専門の分野でのご経験やお立場からさまざまなご意見が出てきた委員会でした。皆さんのご意見やこの飯田のまちに思っていることを、将来への思いも含めまして紡ぎ出されて、その結果、この基本理念や5つの基本方針というものが作り出されたというところを目の当たりにさせていただきまして、「飯田方式」というのは本当にすごいなと実感しました。

今後、この基本構想がパブリックコメントということで多くの方にご覧いただいて、ご意見を頂くことになっていくと思います。委員会で紡ぎ出してきたこの基本構想が、さらに強いものに策定されていくということを実感できまして、ワクワクしています。

未来をつくり出せるような基本構想になったのではないかなと感じています。

皆さんのこの委員会で「飯田方式」というものを本当に実感できた10回となりました。本当にありがとうございます。参加させていただいて大変勉強になりました。これからまだまだ11回目もありますので、よろしくお願いします。

私からは以上です。

○委員長 ありがとうございます。

続いて、〇〇学識委員お願いします。

○学識委員 私も同じような感想ですが、今ここで委員の皆さんが最後に一言ずつを言われた中でも、いろいろと参考になるキーワードが出てきて、こういうのがやっぱり飯田なんだよなとまた実感しています。

この会議が始まる最初の段階でも、私も外から、県外から来て飯田と関わるようになって、「飯田らしさ」や「飯田方式」を耳にします。この地域の皆さんとホールとの関わり方というのは、本当に全国的にも稀な形ではないか。それは否定ではなくて、我々オーケストラ業界、狭い業界ですが、「飯田、素晴らしいよね」ということをずっと以前から話しています。

今、皆さんから施設の運営方式などいろいろな話が出てきましたけれど、前回のこの委員会の終わりにオブザーバーがおっしゃったことを思い出しました。この資料の管理運営、29

ページのところ、「直営方式を評価する声が多くありました」、「より良い運営体制を構築します」と非常に控えめにまとめていただいています。ここにお集まりの皆さんは今の文化会館の運営方式を想定されて、ご意見を出されているのではないかと思います。

15 ページでも「飯田方式」をあえて付け加えていただいていますし、「飯田らしさ」、「飯田ならではの」という言葉が満載の資料ですので、運営方式の部分がこう控えめな形のままでいいのかな、もう少し強くアピールしてもいいのではないかなと気付きましたので、付け加えさせていただきます。

以上です。

○委員長 はい、鋭いところをありがとうございます。

それでは続いてお願いします。

○学識委員 私も今回まで全 10 回、幸い全て参加させていただきました。

皆さんの非常に熱い思いを感じながら、専門にしている立場から、皆さんの思いが実現する方法はないかといろいろと考えて、自由に楽しく発言をさせていただきました。どうもありがとうございました。

最初の頃は、学生は「委員会」という名称の場で何か難しいことを話してるんだろうと敬遠しがちで、すぐに焼肉を食べに行ってしまうていたんですが、第 4 回、第 5 回辺りからは、学生も非常に楽しい場であると同時に、学びの多い場であると感じてくれるようになりました。ほかに打ち合わせがある学生はなかなか足を運べないこともありましたが、飯田にお邪魔をする中で、学生を非常に寛大に受け入れていただいて、さまざまな議論に参加させていただき、本当にありがとうございました。

また、事務局の皆様も、これだけの基本構想をまとめ上げるのは大変なご苦労があったと思いますが、非常に素晴らしいもの出来上がったと思っています。

本当に非常に、私にとっても勉強になることが多々ありましたし、それより何より大変楽しく参加させていただきました。どうもありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

続いて、オブザーバー、感想をお願いします。

○オブザーバー こんばんは。本当に長い間お疲れさまでした。

文化会館の歴史が書かれたページがありました。実は私、文化会館竣工から関わってまして、まさに 50 年間「飯田方式」にしっかり浸かった一人です。この委員会の議論を本当に楽しみに、そして羨ましく、そして誇りに思っていました。

結論から申し上げて、この基本構想の結論が前のほうに持ってこられたことは非常に良か



ったなど。先ほど〇〇委員がおっしゃったとおり、市民の皆さんにどう伝わるかということに対しては、基本構想の結論が1ページにもあってもいいのかなというくらいインパクトのあるものができたと思っています。

委員会の皆さんの地道な取り組みで、まだできていないですが、新しい文化会館の魂が宿ったような気がしました。また、新しい文化会館のありようというものが見えてきたとも思いました。

先ほどからお話があるとおり、私がいろいろな方にお伺いすると、必ず「もうできる場所は決まったかな」、「どこにつくるんな」と出てきてます。市民の方の大方は「どこにできるか」への関心が主であることが実態ですが、この委員会の営みを大事にしたい。それから先ほど学識委員からありましたが、場所に対する具体的な附帯意見、運営方式のあり方、この辺りは基本構想に書き込めないかもしれないが、委員会の思いとして伝えていくことは必要かなという気がしました。

大変お疲れさまでした。

○委員長 はい、ありがとうございます。

それでは最後に事務局の秦野次長から、本日のまとめを含めて、今後に向けてのご発言をお願いします。

○教育次長秦野 皆様、今日はありがとうございました。

一つお願いがありますが、まだ終わりではないです。これで終わりというような発言が多かったですが、これからです。

皆さんにお話いただきましたが、魂を入れる新しい文化会館のありようがこれから決まっていく際は、中で活動をしている、外から参加してもらえる、その皆さんが全てだと思います。新しい文化会館のありようが、皆さんの力でさらに前へ進んでほしいと思います。

素案の3ページを見ていただくと、「市民憲章」と「自治基本条例」を載せています。この中で我々がやはり一番大事にしなければいけないのは「ムトス」。他人事ではなくて自分たちでつくり上げていく、そういう文化会館にさせていただけたらと思います。ここが最後ではなく、これからパブリックコメントや市議会の皆さんからご意見を頂きながら、最終的な基本構想としてまとめていくという段階ですし、その先は基本計画などの策定に向かいますので、最後ではないということをご皆さんの心に落としていただければと思います。

今日も皆さんのお話のなかで、いろいろと大変大切なものを教えていただいたと本当に思いました。文化の集積というものの大切さ。私も実は古川へ行ったことありますが、起し太鼓などを見ていると、文化が集積することの大切さを思った場所でもありますので、こうい

うものをどう伝えていくかということも大事ですし、先ほど〇〇委員の「文化をどうつなぐか」、「今ここに熱い思いを持っておられる人たちから若い人たちでどうつなぐか」、そのようなこともこれから我々が自ら担っていかなければいけない部分と思っています。

建設場所の件ですが、これは附帯意見という形では付けていただくわけにはいかないと思います。今回、アンケート用紙を用意させていただきました。その中に皆さんの思いをぜひご記入いただいて、私どもの検討につなげていきたいと思っています。ぜひ具体的な場所も含めてさまざまな思いを書いていただいて、こちらにご提出いただければと思います。

今後の予定ですが、本日のご意見をまた基本構想（素案）に反映させていただきまして、2月に「(案)」として、広く市民の皆さんから意見を募るパブリックコメントに諮っていきたいと思っています。それと同時に、市議会の皆さんからもご意見を頂きながら、3月の整備検討委員会で最終報告をさせていただこうと考えています。

来年度は基本計画の策定となり、より具体的なものとなってきます。具体的に専門的な検討となりますので、専門家の皆さんとチームを組んで進めていくことを想定していますが、これまで基本構想をご検討いただきましたので、ぜひ整備検討委員の皆さんにもご意見を伺う機会、この基本構想を基本計画へしっかり反映させる、そういう場を設けていきたいと思っていますので、引き続きよろしく申し上げます。

以上、まとめとさせていただきたいと思っています。よろしく申し上げます。

○委員長 はい、ありがとうございました。

以上で、本日予定されていた議事を終了とさせていただきます。

委員の皆さんには熱く語っていただいて、本当にありがとうございました。

今回は3月に開催が予定されていますので、引き続きよろしく願いいたします。

---

### 3 事務連絡

○委員長 最後に、事務連絡を事務局から申し上げます。

○補佐筒井 事務局、筒井です。ありがとうございました。

今、次長からもお伝えしましたが、本日もアンケート用紙を付けています。一言ずつ感想をおっしゃっていただきましたが、まだまだ言い足りないということが多分おありだと思いますので、ぜひアンケート用紙にご記入いただき、ご提出ください。

先ほど「市民の皆さんに分かりやすく」ということをお話いただきました。基本構想（素案）というこの50数ページのは、市役所や各公民館にも配置しますが、その概要版としてA3判、定期的に発行しているニュースレターのような形で市民の皆さんにも組合回覧

を通じて、学校を通じて配布したいと思っています。

それを経まして、次回の委員会が3月ということですが、まだ日程が未確定であります。パブリックコメントのご意見を反映することとなりますので、3月下旬になろうかと思えます。年度末でお忙しいところですが、ご承知おきいただければと思います。早めに開催のご案内をさせていただきます。

事務局からは以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

---

#### 4 閉 会

○委員長 それでは、以上で第10回新文化会館整備検討委員会、閉会とします。

どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

---

閉 会 午後8時54分